

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

§ 1 一般事項

1-1 基本事項

1. 使用材料、工法等は特記仕様書および設計図による。
2. 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。
また本標準に明記なき場合は特記仕様書に指定した
共通仕様書による。
3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。
4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。

§ 2 共通事項

2-1 材料

規格番号	JIS A 5308	N/mm2		
位置	種類	設計基準強度 Fc	比重	スラブ
主架構全般	普通コンクリート	21	2.3	15
土間コンクリート	普通コンクリート	18	2.3	15
捨てコンクリート	普通コンクリート	18	2.3	15

鉄筋

規格番号	径	表示	種類	継手
JIS G 3112	10～16mm	D_	SD295A	重ね継手

2-2 基礎形式

ベタ基礎 必要地耐力20 (kN/m2)
直接基礎 必要地耐力30 (kN/m2)

2-3 鉄筋の表示記号

鉄筋の表示記号及び最外径は下表による。

記号	°	×	∅
呼び径 d	D10	D13	D16
最外径 D	11	14	18

・フックのない場合
・フックのある場合
・本数に差がある場合
・機械式継手表示
・溶接継手表示
(ガス圧接、突き合せ溶接)

2-4 鉄筋の折り曲げ

曲げ角度	図	鉄筋の種類	折り曲げ内法直径 (D)	
180°		SD295A	D16以下	3d以上
135°				
90°				

鉄筋中間部

折り曲げ角度	図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	折り曲げ内法直径 (D)
90°以下		帯筋 あばら筋 スパイラル筋 スラブ筋	SD295A	D16以下	3d以上
		スラブ基礎梁などの主筋	SD295A	D16以下	4d以上

2-5 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm2)	重ね継手の長さ (L1)	定着の長さ		
			一般 (L2)	下端筋 (L3) 小梁 片持スラブ スラブ	
SD295A	18	45d 又は 35dフック付き	40d 又は 30dフック付き	25d 又は 15dフック付き	10d かつ 150 以上
	21、24	40d 又は 30dフック付き	35d 又は 25dフック付き		

コンクリートの割裂のおそれのある部分への定着はL1とする。

1. 末端のフックは、定着及び重ねの長さには含まない。
2. 直径の異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細いほうの鉄筋の継手長さによる。
3. 耐圧スラブの下端筋の定着長さは一般定着 (L2) 、上端筋は25dとする。
4. 軽微な個所については、工事監督者の承諾を得て定着長さを20d程度とすることができる。

2-6 継手一般

1. 重ね継手 (下記のいずれかとする)

1. 5L1以上

約0. 5L1

2. 溶接継手を行う場合は原則として同一鋼種とし、鉄筋径の差はガス圧接の場合は2サイズ、突き合せ溶接の場合は1サイズまでとする。

・鉄筋のあきaは原則として下記による。

呼び名の数値 d の1. 5倍以上
粗骨材の最大寸法の1. 25倍以上

かつ25以上※

※溶接継手、機械式継手の場合のDはスリーブ又はカップラーの径とする。

・鉄筋径が異なる場合は大きい方による。

2-7 鉄筋のあき

鉄筋に対するコンクリートの設計かぶり厚さと最小かぶり厚さ

部 位		かぶり厚さ		
		仕上がりあり	仕上がりなし	
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	30 (20)	30 (30)	
	柱 梁 耐力壁	屋 内	40 (30)	40 (30)
		屋 外	40 (30)	50 (40)
	擁壁・耐圧スラブ	50 (40)	50 (40)	
土に接する部分	柱・梁・床スラブ・壁 布基礎の立上り		50 (40)	
	基礎・擁壁・耐圧スラブ		70 (60)	

1. () 内の数値は最小かぶり厚さを示す。
2. 仕上がりあり とは、鉄筋の耐久性上有功な仕上げのある場合とする。

2-8 かぶり厚さ

§ 3 基礎梁

3-1 基礎梁の継手及び定着

基礎梁の継手
重ね継手長さは、L1とし、継手位置は下図とする。

(注) [] は、継手の好ましい位置を示す。

定着要領

(注) 破線は、柱内定着を示す。

・コンクリートの試験は公的 (知事認可) 機関にて行うこと。
・コンクリートの強度試験方法、調査及び養生方法

打込日、打込工区ごと、150m3又はその端数ごとに1回とし、検査ロットとする。
1回の試験に使用する供試体の数は、3個を標準とする。
3個の供試体の採取は任意の3台の運搬車から1個ずつ、合計3個採取する。
1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均値とする。
コンクリートの養生は現場水中養生とする。
強度管理の材齢28日を超える場合は現場封かん養生とする。
計画調査は、所要の強度、耐久性が得られるよう定め、承認を受ける。
調査強度は下記の両式を満足するものとする。(材齢28日の場合)

$F28 \geq F_q + T + 1.73 \sigma$

$F28 \geq 0.85 (F_q + T) + 3 \sigma$

スラブ (cm)	15
水セメント比 (%)	65%以下
単位水量 (kg/m3)	185以下

保湿養生期間：5日以上 (普通ポルトランドセメント、一般、標準)
養生温度：2℃以上に保つ (寒冷期、5日以上)

・コンクリートの型枠の取外し時期及び方法

せき板の在置期間 (普通ポルトランドセメント)

コンクリートの材齢による場合	15℃以上	3日
	5℃以上	5日
	0℃以上	8日
圧縮強度による場合		5N/mm ²

型枠の取外しは、型枠の最小存置期間後に行う。(下表)
静かに取外し、支保工や埋込金具を傷めないようにする。
所定の材齢まで初期養生を行う。

(仮称)スタイルデザイン (カフェ) 新築工事

sign

drawn

checked

date
2020. 07. 20

drawing title
鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

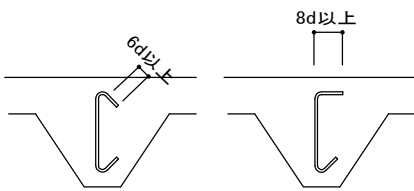
scale
1/100

drawing No.
S01

鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）

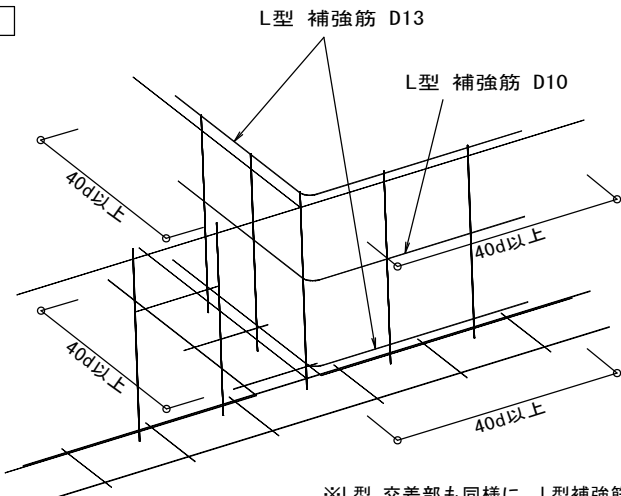
3-2
あばら筋

・あばら筋の加工は下図による。同時打込みのスラブ付の場合に限る。
※ねじれ応力を受ける腹筋は定着長さL2とする。



3-3
補強筋

交差部



※L型 交差部も同様に、L型補強筋を入れる

3-4
梁の貫通補強

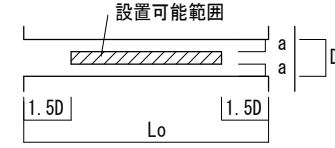
梁 貫通補強
φ>D/10又は、φ≧150の時、下の鉄筋補強を施す事。

梁巾	穴径 梁成	100φ	150φ	200φ	250φ	300φ	350φ	400φ

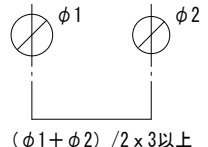
梁 貫通補強タイプ

種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

(注) ---は、一般部分のあばら筋を示す。



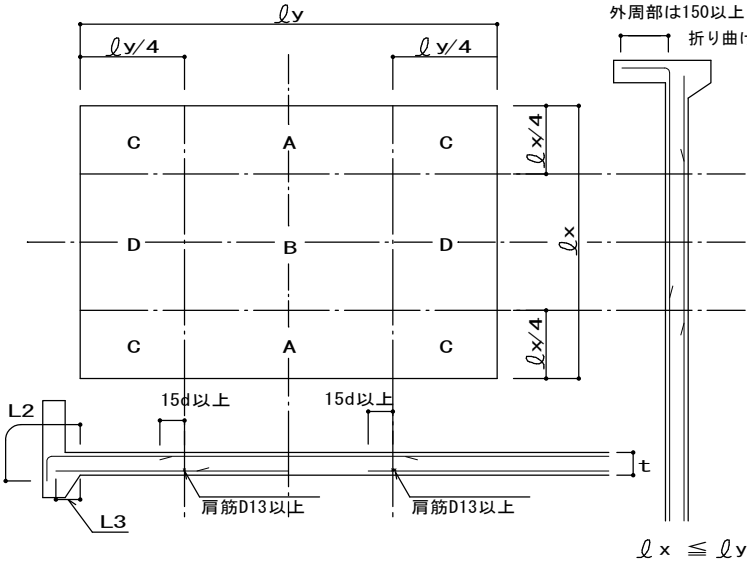
500≦D<700 a≧175
700≦D<900 a≧200
900≦D a≧250



(φ1+φ2)/2×3以上

§ 4 スラブ

4-1
鉄筋の折り
曲げ及び
定着



外周部は150以上
折り曲げる

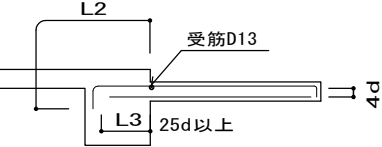
$l_x \leq l_y$

4-2
継 手

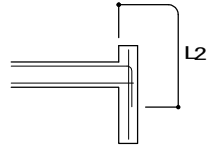
下向き荷重を受けるスラブの継手位置は下表による。
上向き荷重を受けるべた基礎(耐圧スラブ)の継手位置は下表の上端筋と下端筋を逆に読む。

		標準 継 手 位 置		
上 端 筋	短 辺 方 向	B	D	
	長 辺 方 向	A	B	
下 端 筋	短辺・長辺方向	A	C	D

4-3
片 持 ち
ス ラ ブ



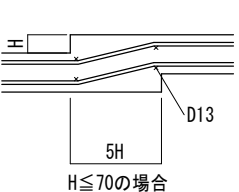
片持ちスラブ隅角部補強は設計図による。



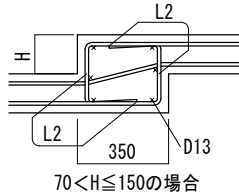
先端に荷重のある場合。

4-4
補 強 筋

段違床

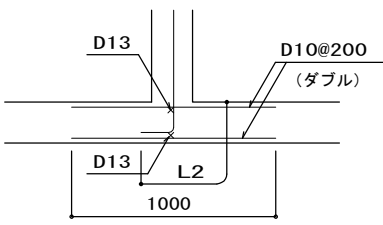


H≦70の場合



70<H≦150の場合

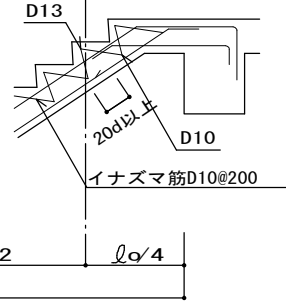
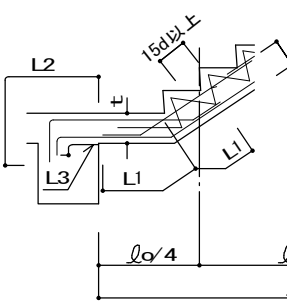
RC壁・CB壁が床にの場合



§ 5 その他

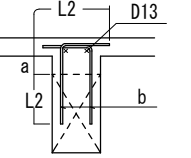
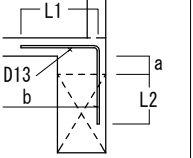
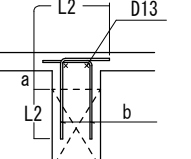
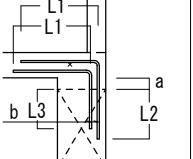
5-1
階 段

スラブ階段



5-2
土間コンクリート

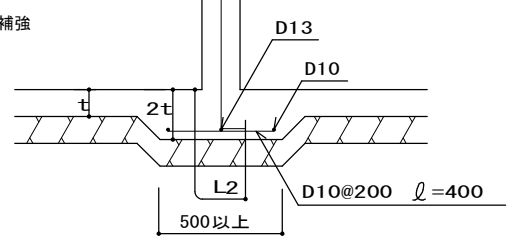
土間スラブの打継ぎ補強筋
(土間コンクリート、構造スラブ 共)

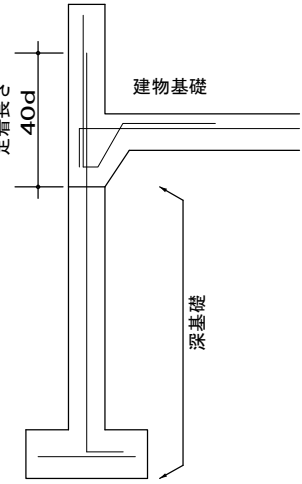
スラブ 配筋	中間部	端部
シングル		
ダブル		

a≦300mm b:スラブ 上端筋と同径、同ビツとする。

5-3
深基礎

RC壁・CB壁の補強

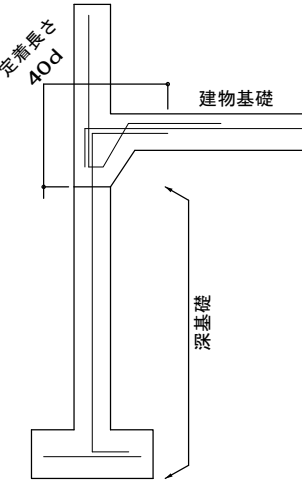




定着長さ 40d

建物基礎


深基礎



定着長さ 40d

建物基礎

深基礎

 (仮称)スタイルデザイン（カフェ） 新築工事

sign

drawn

checked

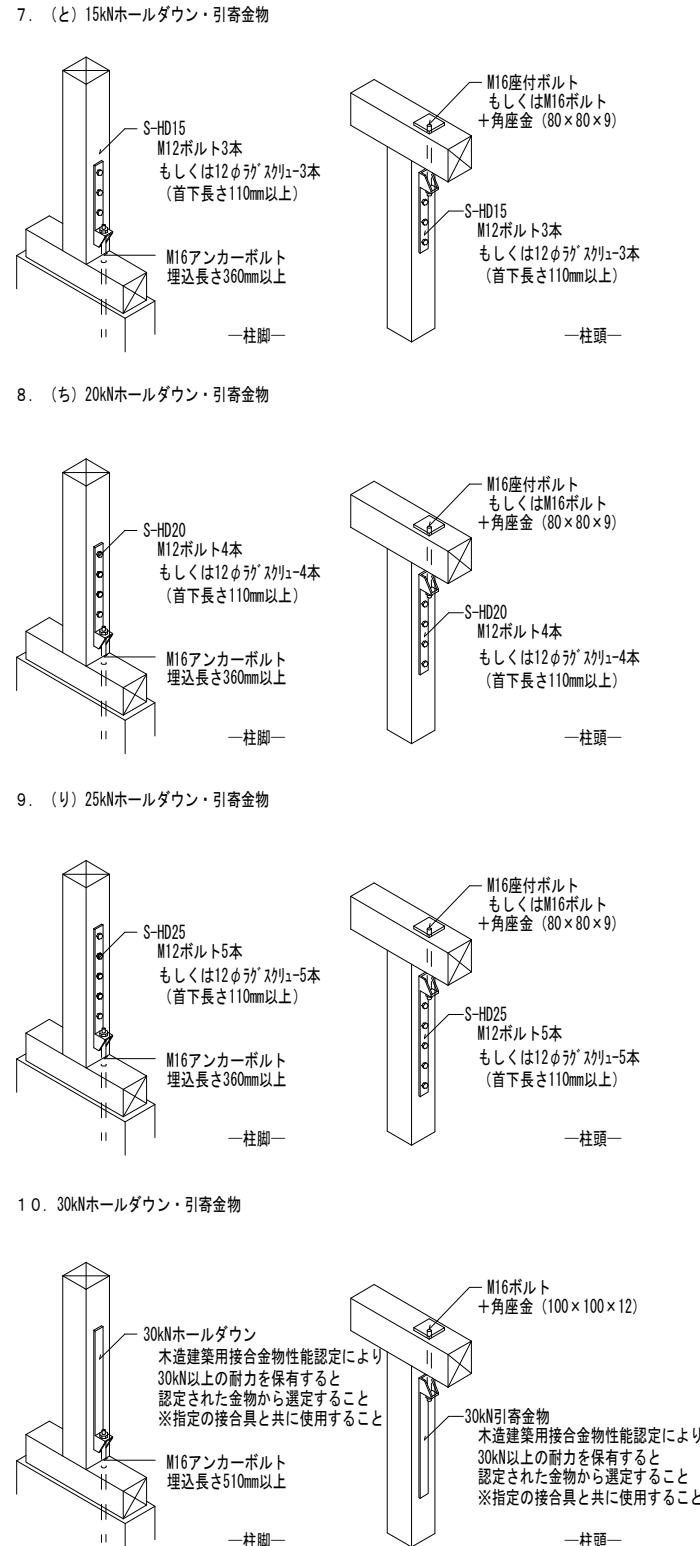
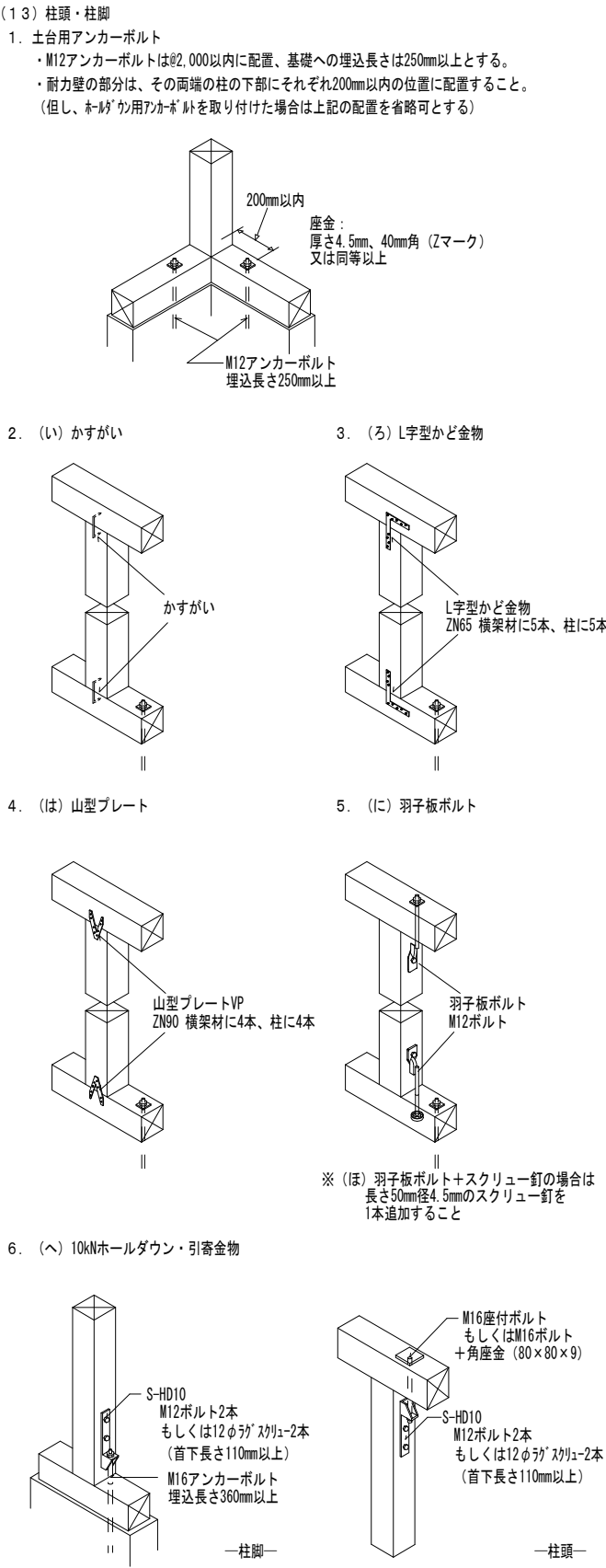
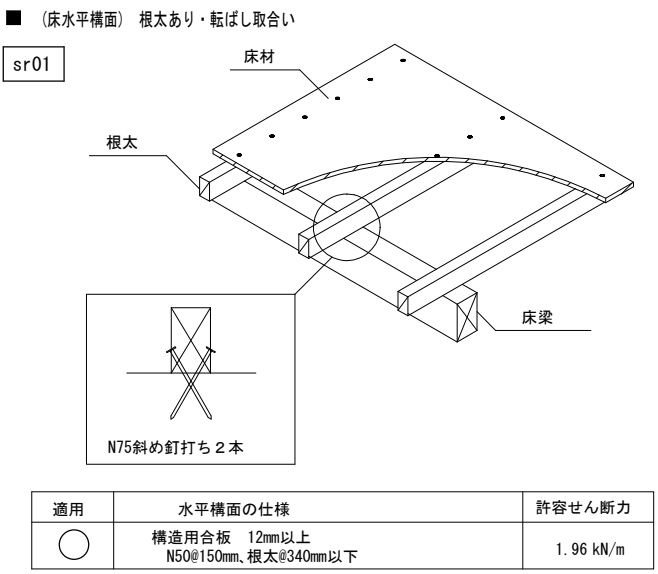
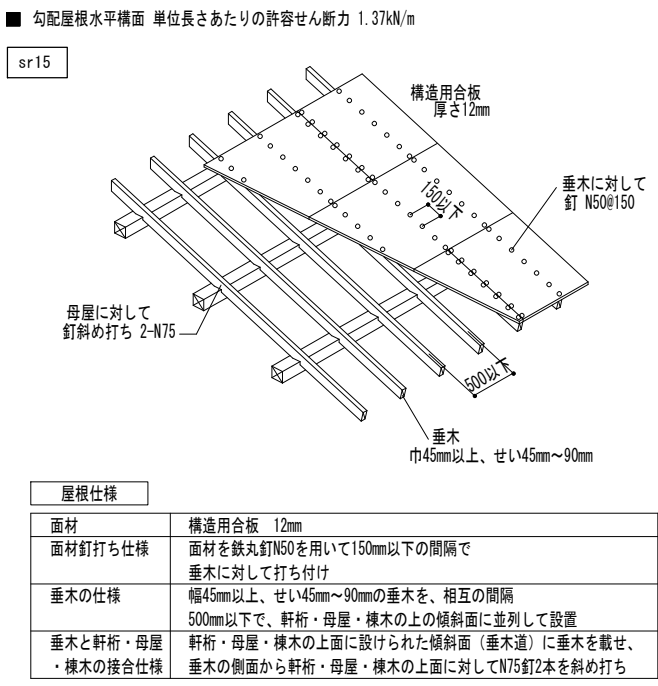
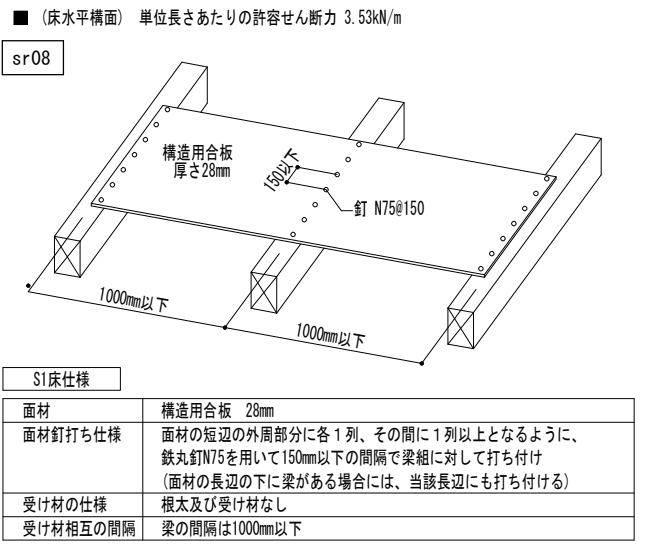
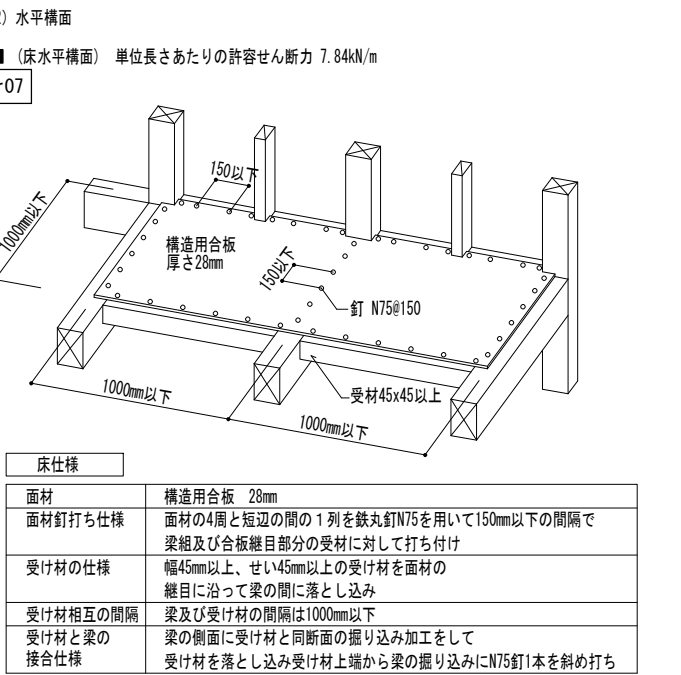
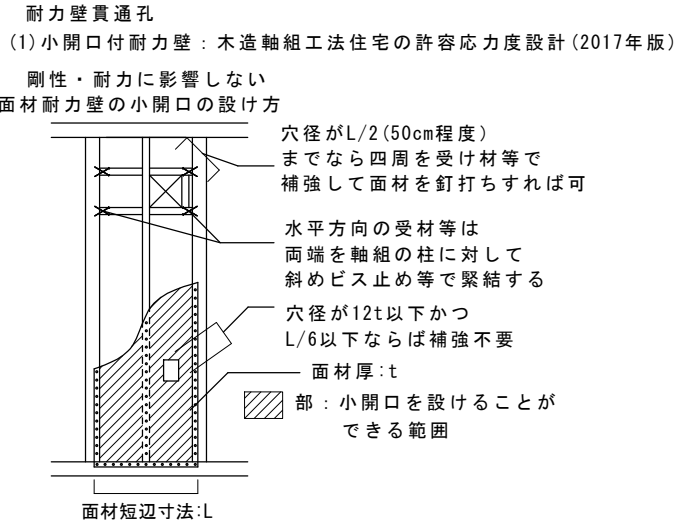
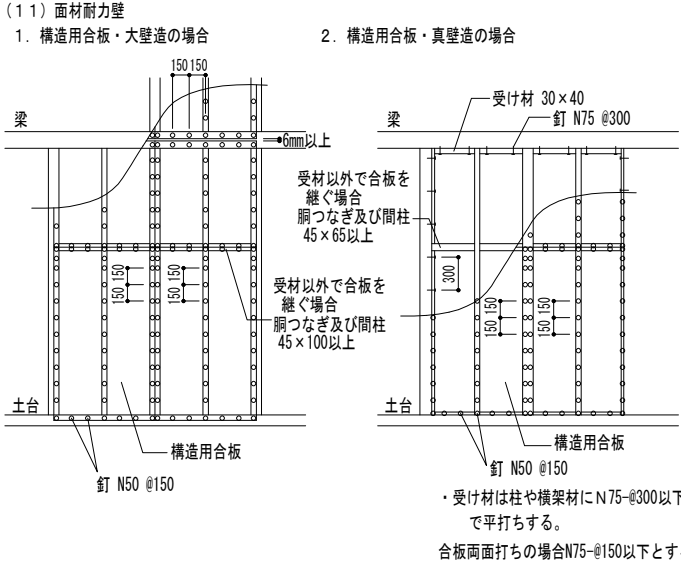
date
2020. 07. 20

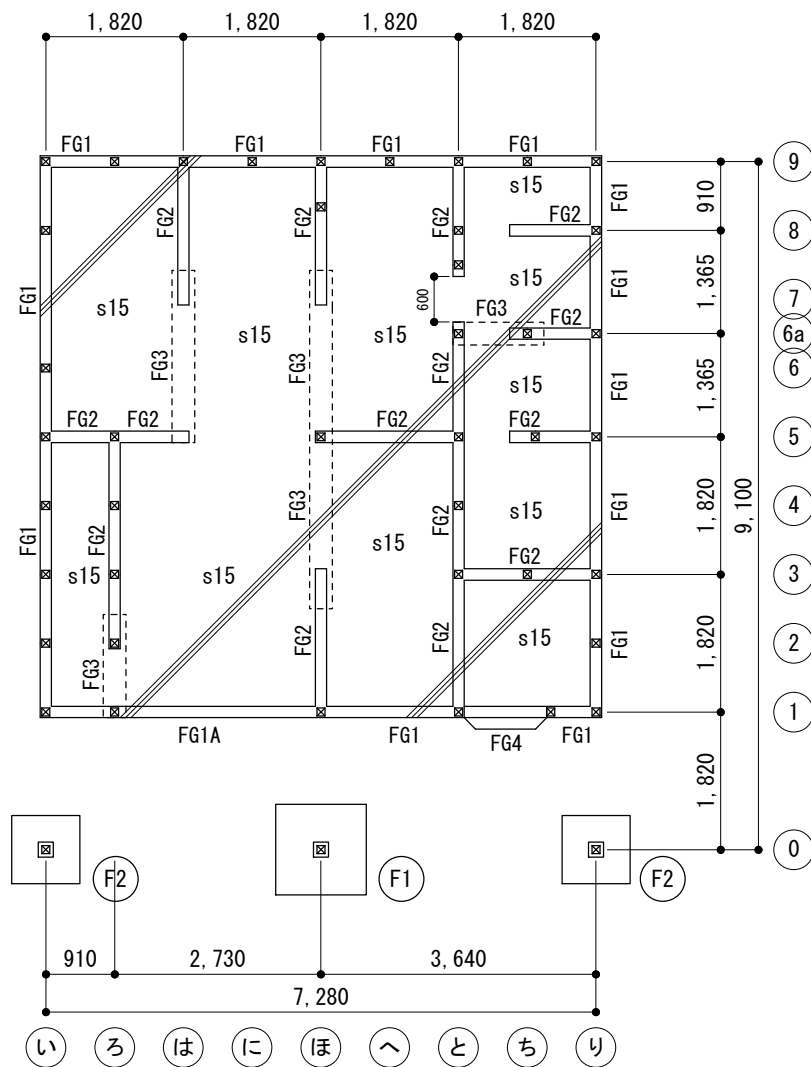
drawing title
鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）

scale
1/100

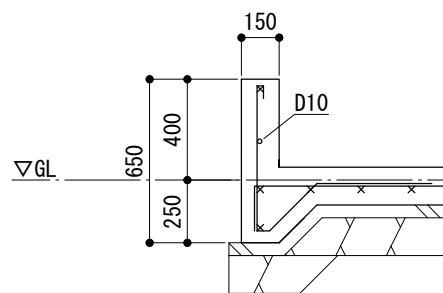
drawing No.
S02

木工事・軸組工法工事 補足特記仕様書（その3）



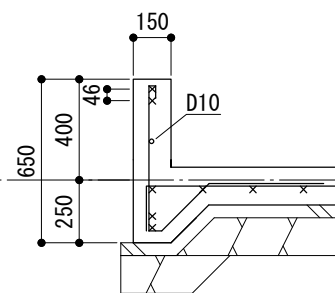


基礎伏図 1/100



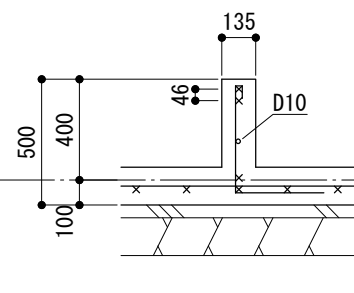
主筋：1-D13上下
STP：L-D10-@200

FG1詳細図 1/30



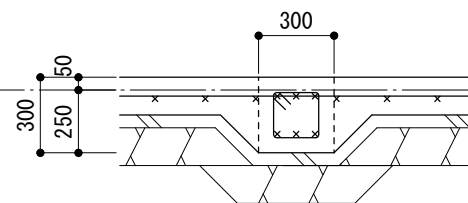
主筋：1/1-D13上下
STP：L-D10-@200

FG1A詳細図 1/30



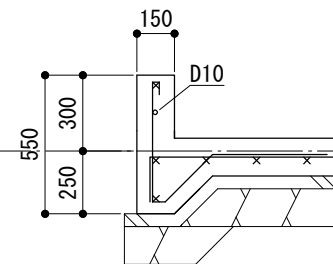
主筋：1/1-D13上下
STP：L-D10-@200

FG2詳細図 1/30



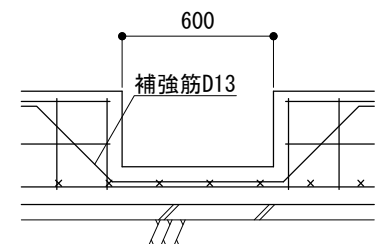
主筋：3-D13上下
STP：□-D10-@200

FG3詳細図 1/30



主筋：1-D13上下
STP：L-D10-@200

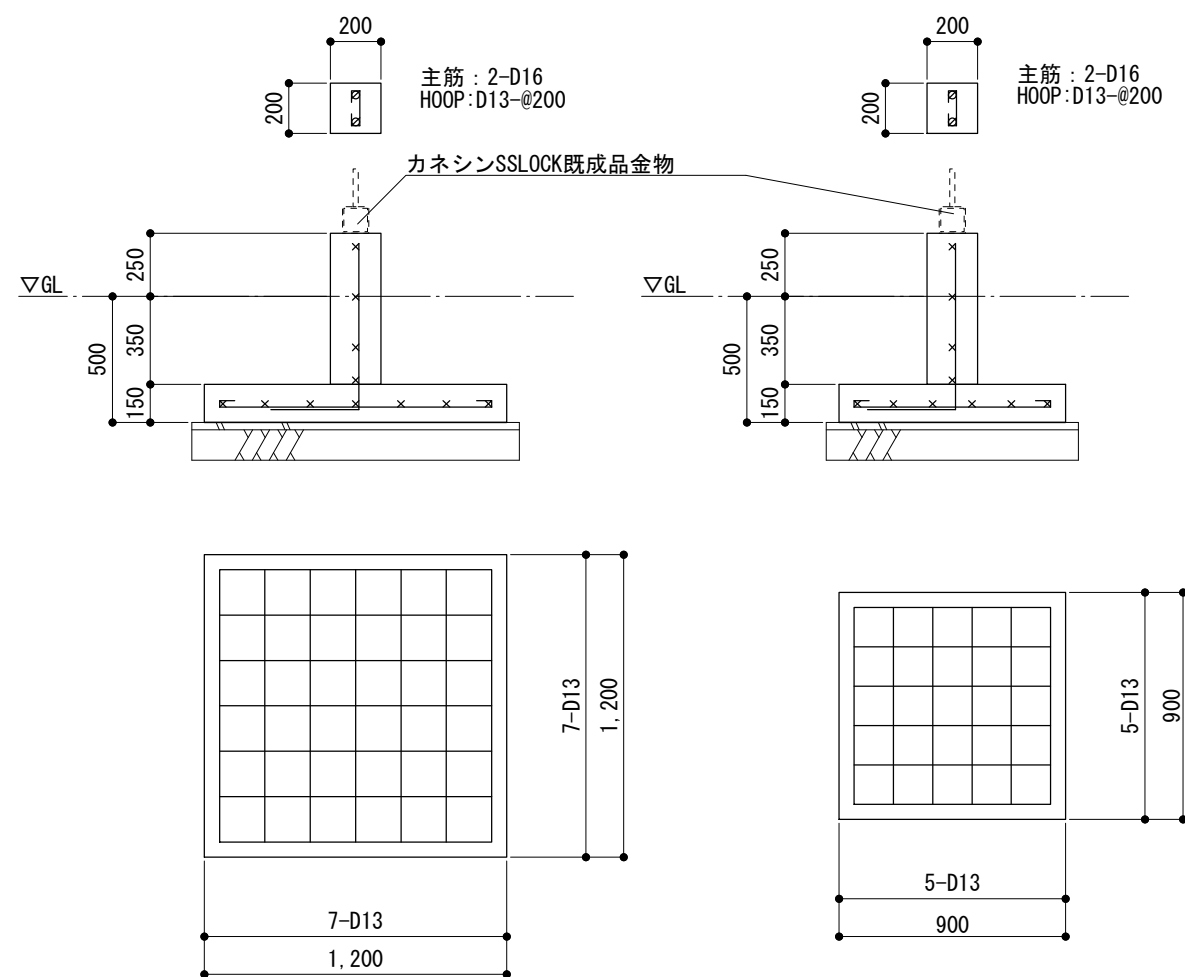
FG4詳細図 1/30



人通口詳細図 1/30

床版リスト

符 号	版 厚	層	短辺方向	長辺方向
s15	150	シングル	D13-@200	D13-@200

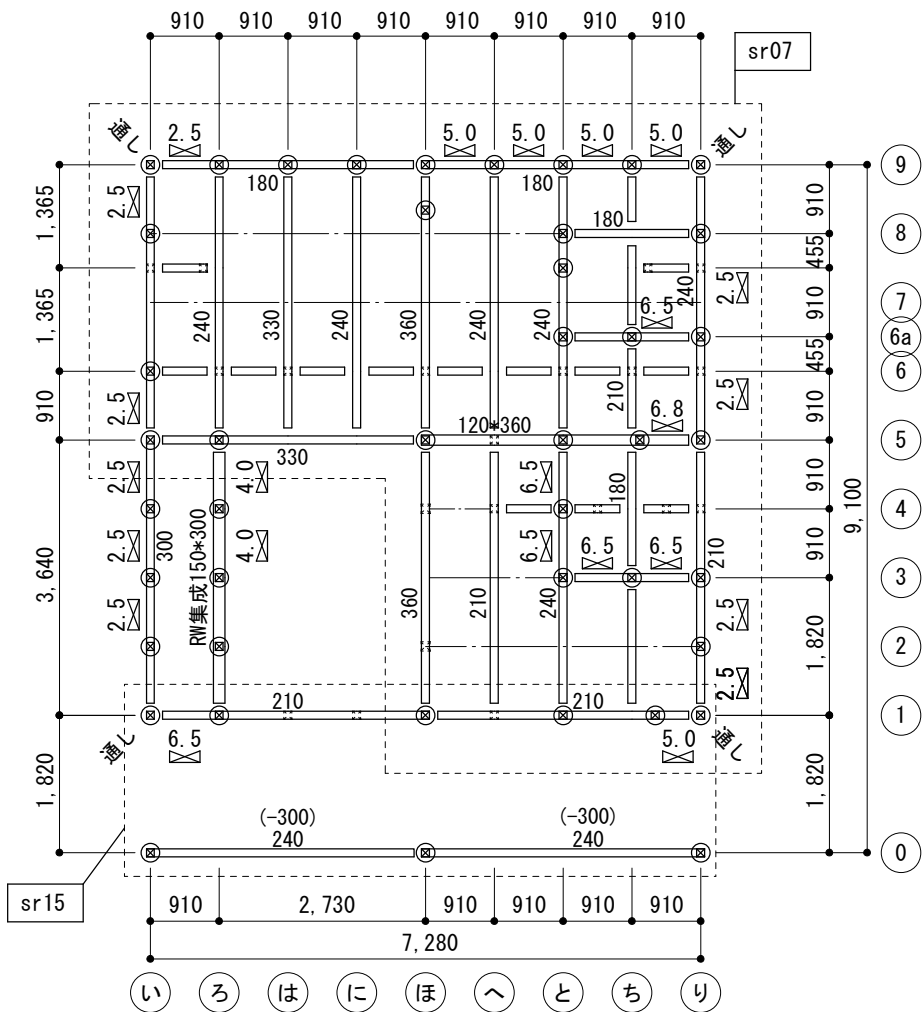


F1詳細図 1/30

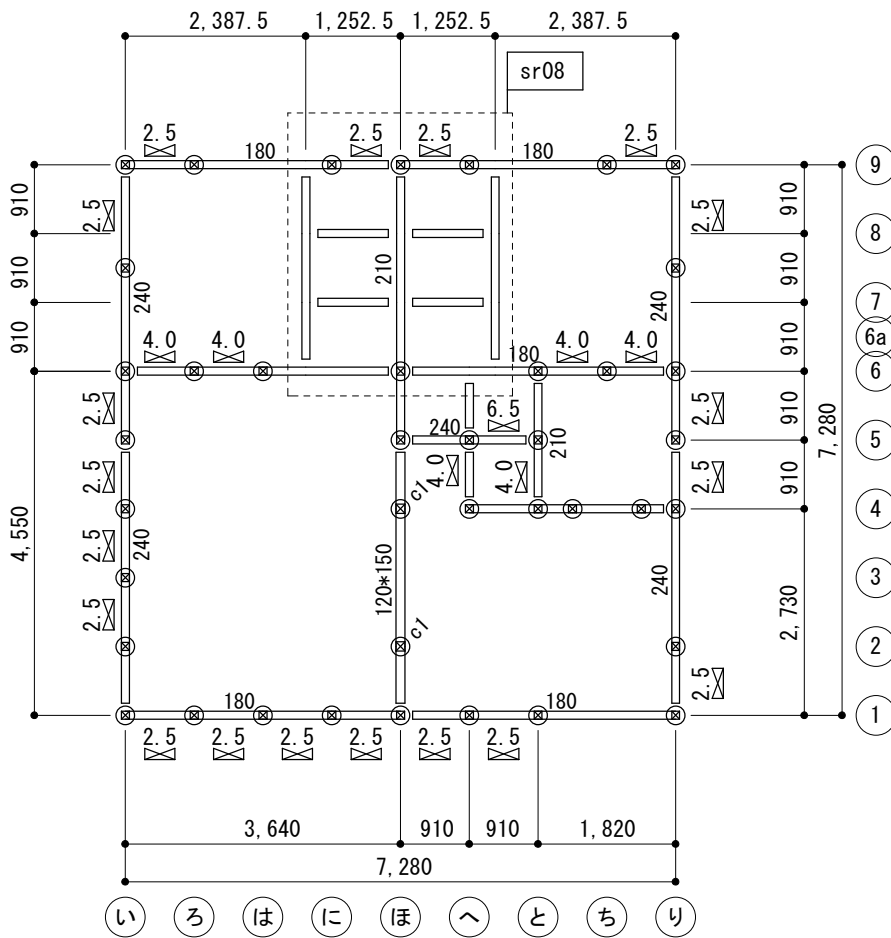
F2詳細図 1/30

※基礎の立ち上がり筋の端部はフックを設けるか組み立て溶接とすること。

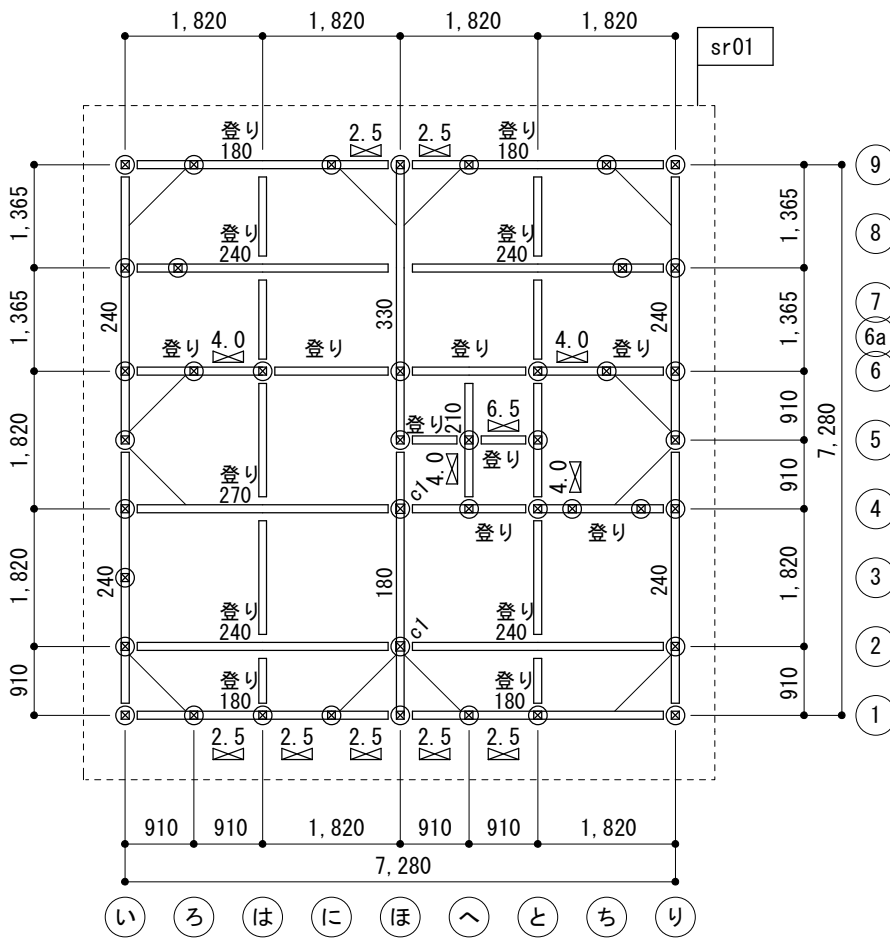




2SL伏図 1/100



軒伏図 1/100



屋根伏図 1/100

特記なき限り
図面は見上げとする。
⊗ 柱位置を示す。
柱105角とする。
梁105*150とする。
梁巾105とする。
c1:120角を示す。
集成はRW集成E120-F330とする。
4.0 筋交い位置を示す。
仕様は壁面材仕様参照
／ 火打ち90角を示す。
—— つなぎ45角以上を示す。

壁耐力壁の仕様

記号	面材1(片面)		面材2(片面)		筋交い	
	仕様	倍率	仕様	倍率	仕様	倍率
4.0	-	-	-	-	45*90ダブル	4.0
2.5	ダイライトMS t9	2.5	-	-	-	-
5.0	(外壁側)ダイライトMS t9	2.5	(内壁側)合板 t9	2.5	-	-
6.5	(外壁側)ダイライトMS t9	2.5	-	-	45*90ダブル	4.0
6.5	(内壁側)合板 t9	2.5	-	-	45*90ダブル	4.0
6.8	合板 t12	3.4	合板 t12	3.4	-	-

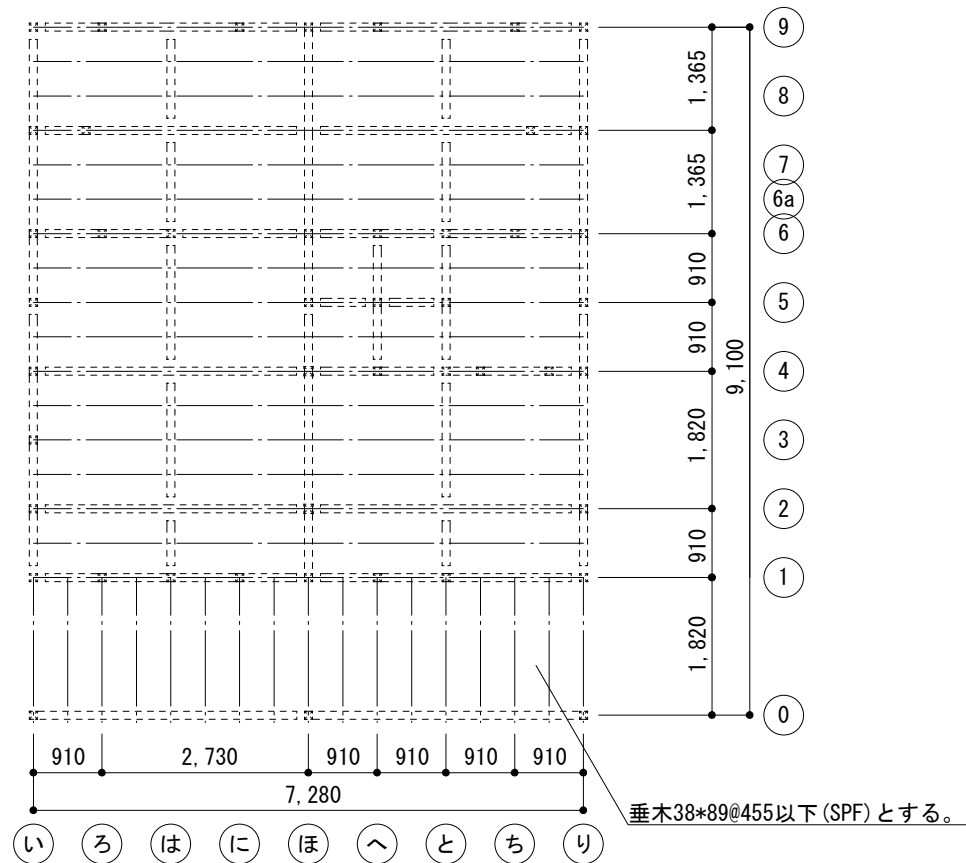
合板 t9仕様(告示S56年1100号第1、三号、別表第2(四))
釘: N50釘を用いて150mm以下の間隔で受材・柱・間柱・(上側の)横架材に釘打ち
受材: 30mm x 40mm以上を床下地材の上から土台・横架材にN75 t9 F300mm以下で釘打ち
真壁仕様とする。

ダイライトt9仕様
釘: N50釘を用いて四周は100mm以下、中通り200mm以下、その他メーカー仕様(ダイライトMS)による
(大臣認定: 平成9年建設省富住指発第9号)

合板 t12仕様(大臣認定 FRM-0337)、倍率3.4
厚12mm構造用合板/CN50/外周@100mm、中通@200mm/受材真壁仕様/木造軸組耐力壁
受け材30*45以上 間柱45*60以上

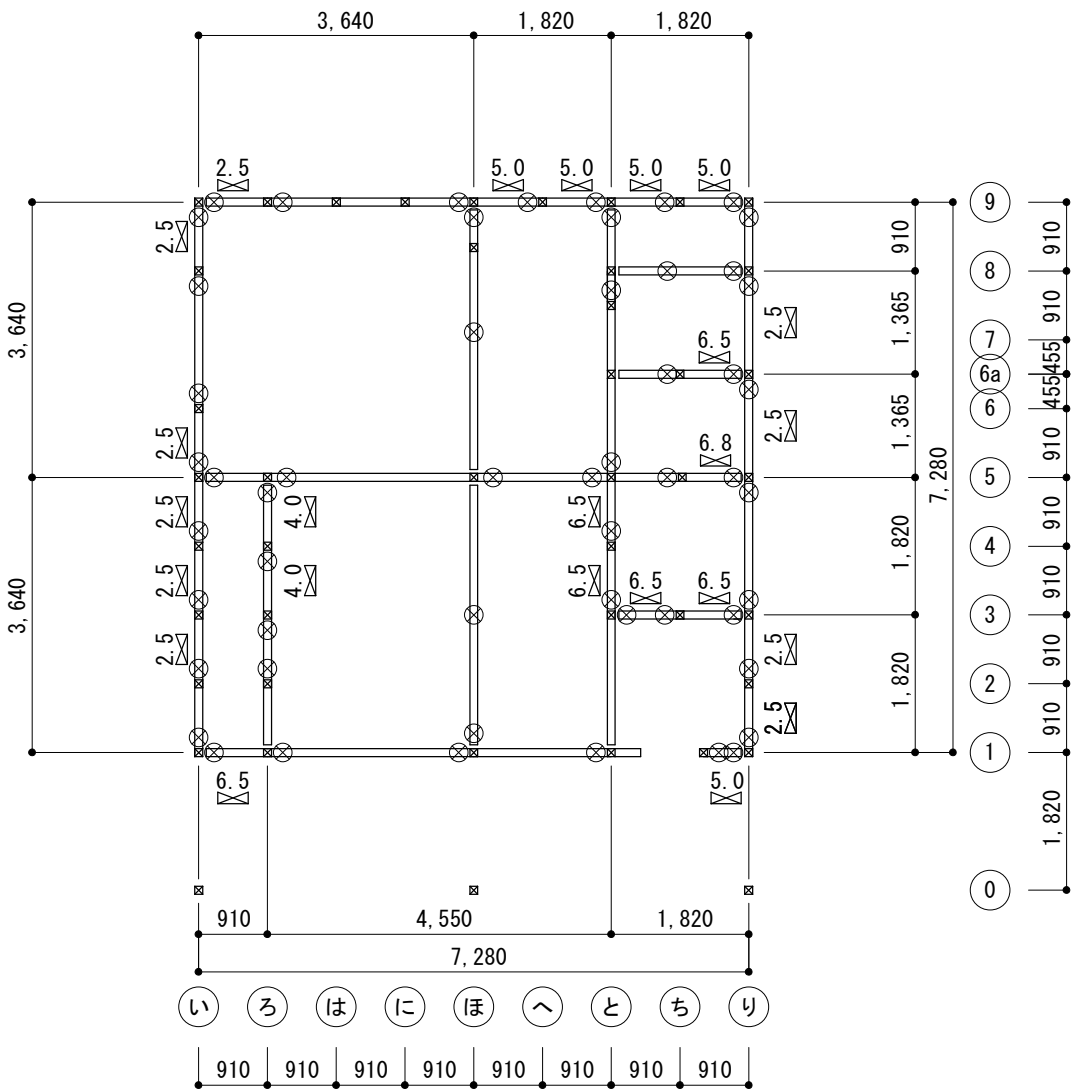
筋交いと間柱の交差部は筋交いから間柱にN75釘2本止めとすること

筋交い金物は柱及び横架材に留め付ける金物を採用とし、
柱のみに取り付ける金物は使用しないこと。



垂木伏図 1/100

特記なき限り
垂木38*89@303以下 (SPF) とする。

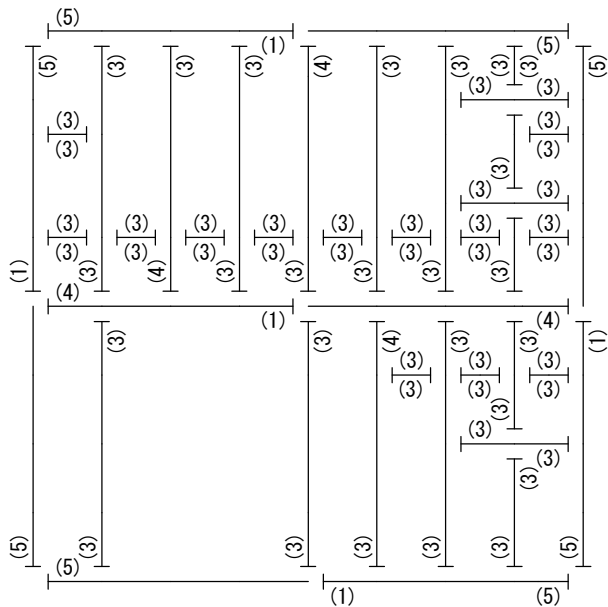


土台伏図 1/100

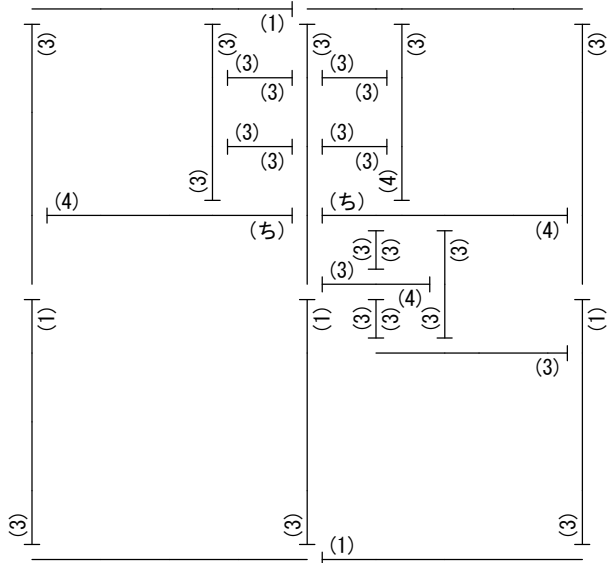
特記無き限り
土台桧105*105とする。
⊗ アンカーボルトM12-埋め込み≧L250を示す。
図中配置は土台のアンカーボルトとしホールダウンは別途柱脚金物図参考とする。

M12アンカーボルト (取付位置)	2700mm以内の間隔 出隅・入隅位置 土台継手の上木を押さえ込む位置 耐力壁の両端の柱の近接位置
----------------------	--

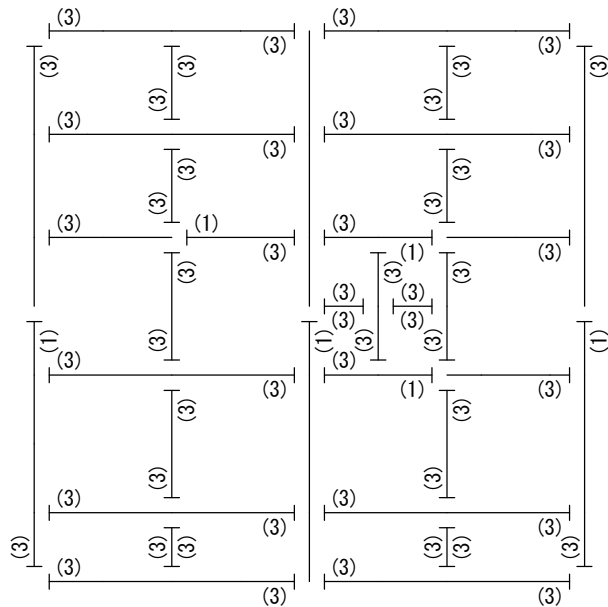




- 9
- 8
- 7
- 6a
- 6
- 5
- 4
- 3
- 2
- 1



- 9
- 8
- 7
- 6a
- 6
- 5
- 4
- 3
- 2
- 1



- 9
- 8
- 7
- 6a
- 6
- 5
- 4
- 3
- 2
- 1

い ろ は に ほ へ と ち り

2SL継手伏図 1/100

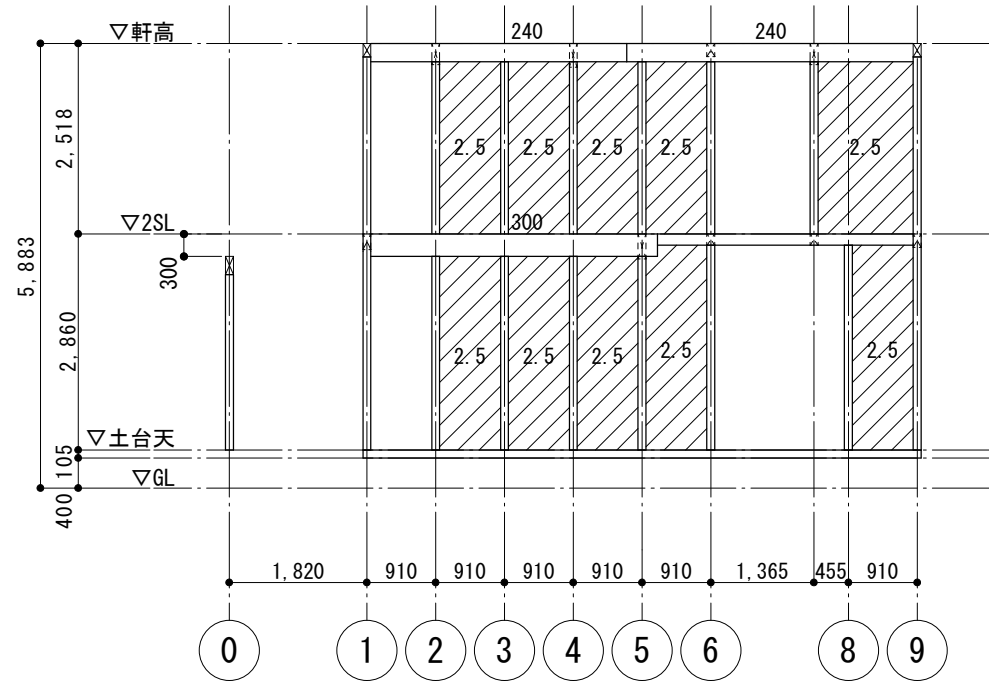
い ろ は に ほ へ と ち り

軒継手伏図 1/100

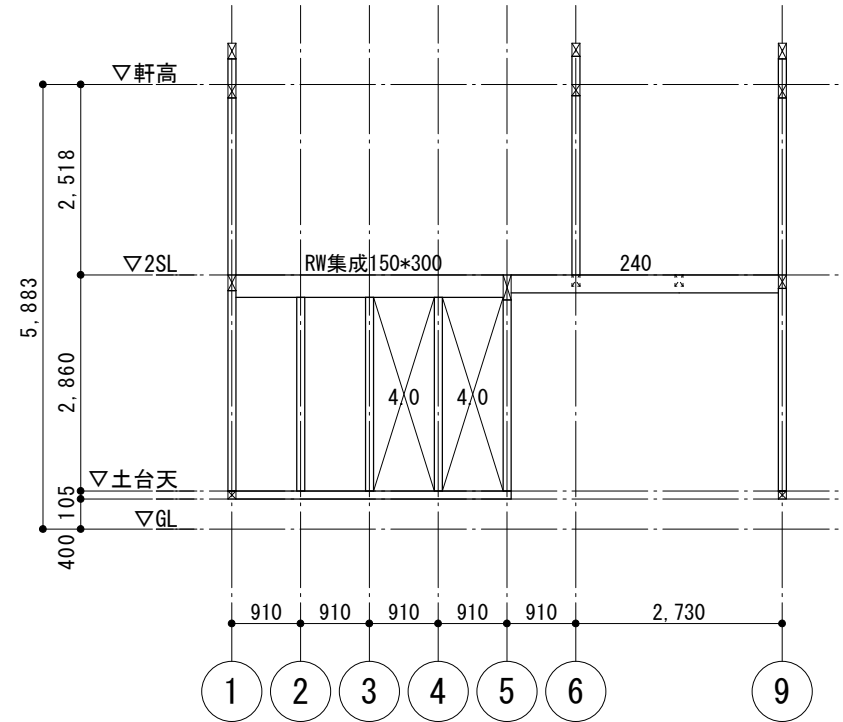
い ろ は に ほ へ と ち り

屋根継手伏図 1/100

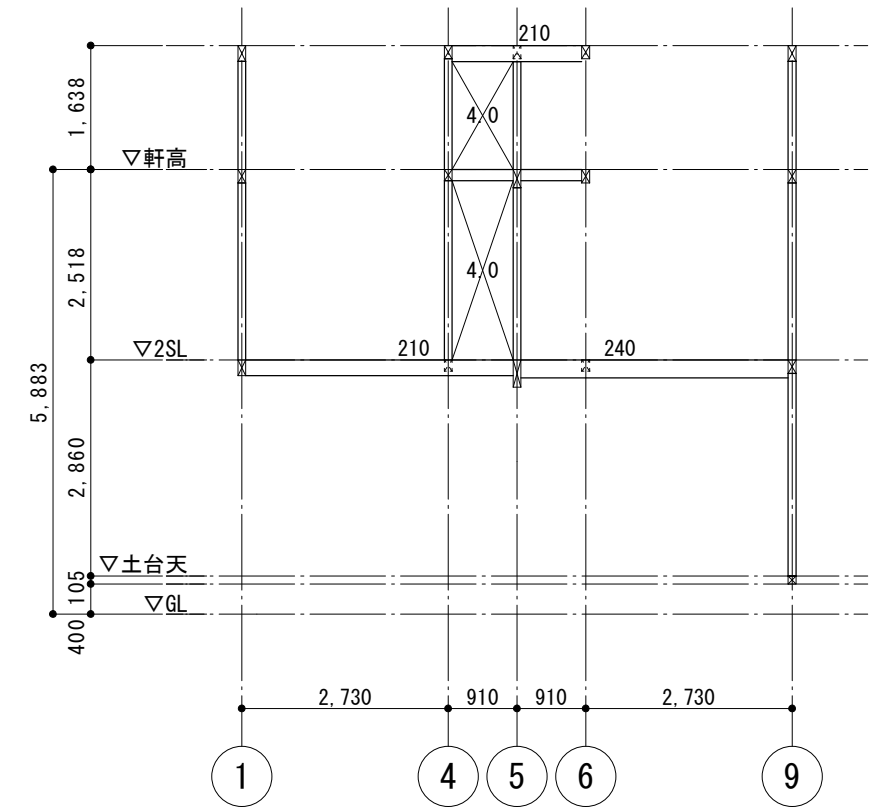
(1)	腰掛け蟻（鎌）継ぎ+厚さ3.2mmの短ざく金物で双方の横架材に対してそれぞれ径12mmのボルト締めしたもの。又は、これと同等以上の接合方法としたもの。	10. 1
(2)	腰掛け蟻（鎌）継ぎ+厚さ3.2mmの短ざく金物2枚を用いて双方の横架材に対してそれぞれ径12mmのボルト締めしたもの。又は、これと同等以上の接合方法としたもの。	15. 9
(3)	大入れ蟻掛け+厚さ3.2mmの鋼板に径12mmのボルトを溶接した金物（羽子板ボルト）を用いて、一方の部材に対して径12mmボルト締め、他方の部材に対して厚さ4.5mm、40mm角の座金を介してナット締めしたもの。 又は、これと同等以上の接合方法としたもの。	10. 1
(4)	大入れ蟻掛け+厚さ3.2mmの鋼板に径12mmのボルトを溶接した金物（羽子板ボルト）2個を用いて、一方の部材に対して径12mmのボルト締め、 他方の部材に対して2個の金物それぞれについて厚さ4.5mm、40mm角の座金を介してナット締めしたもの。又は、これと同等以上の接合方法としたもの。	15. 9
(5)	横架材端部を通し柱に大入れほぞ差し、又は、傾ぎ大入れとし、引張力は羽子板ボルト又は短ざく金物、又は、かね折り金物（厚さ3.2mmの鋼板をL字型に折り曲げて出隅部を通し柱に取り付け直交方向の横架材端部どうしを径12mmのボルト締め）を用いて径12mmのボルト締めとしたもの。 又は、これと同等以上の接合方法としたもの。	7. 5
(6)	横架材端部を通し柱に大入れほぞ差し、又は、傾ぎ大入れとし、引張力は羽子板ボルト又は短ざく金物を用いて径12mmのボルト締めに加えて長さ50mm径4.5mmスクリュー釘1本をそれぞれの横架材に打ち込んだもの。 又は、これと同等以上の接合方法としたもの。	8. 5



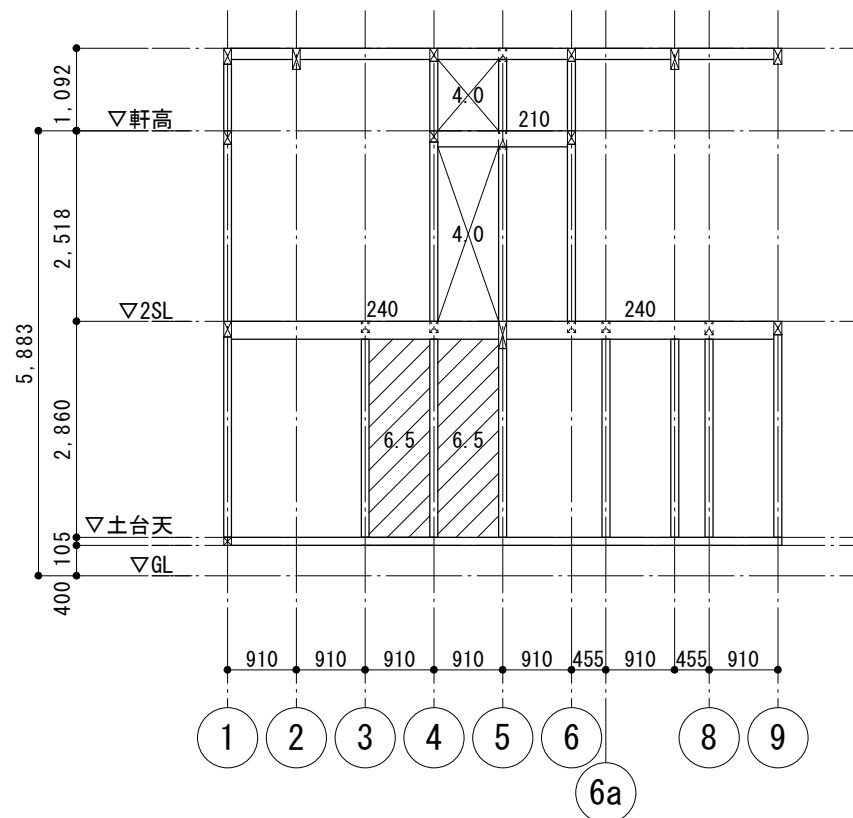
い通り軸組図 1/100



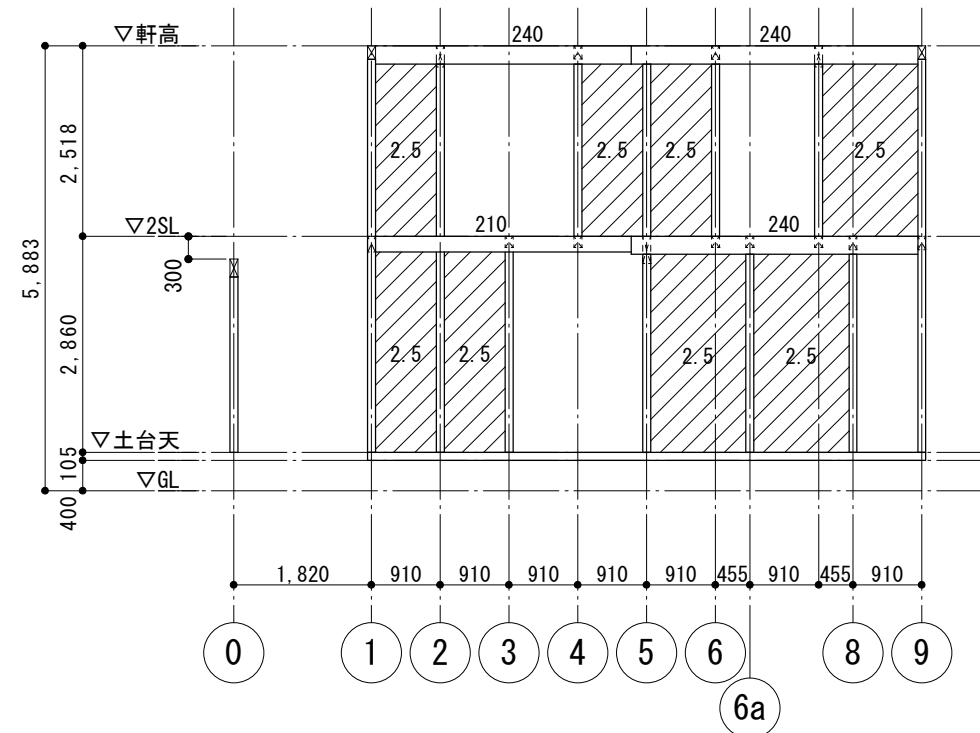
ろ通り軸組図 1/100



へ通り軸組図 1/100



と通り軸組図 1/100

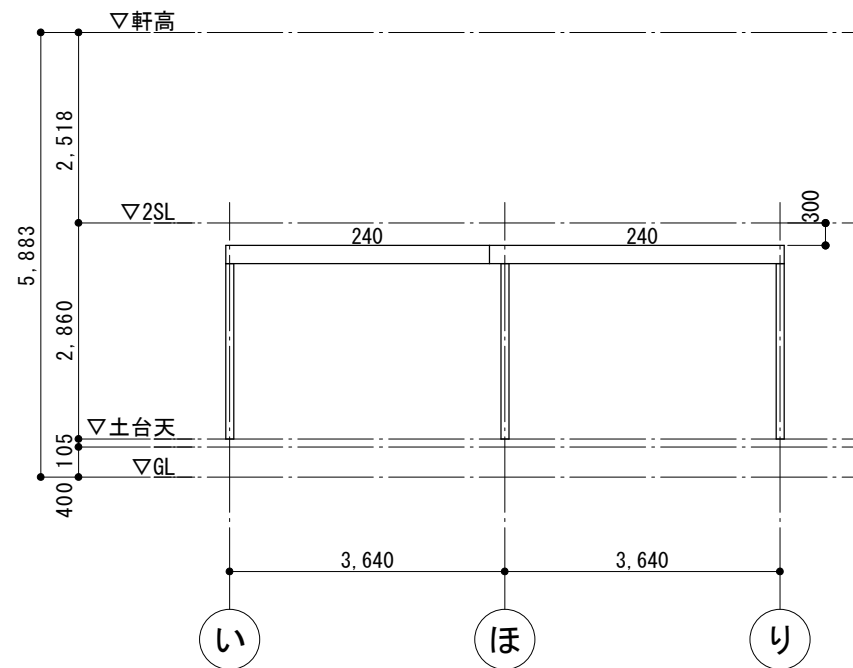


り通り軸組図 1/100

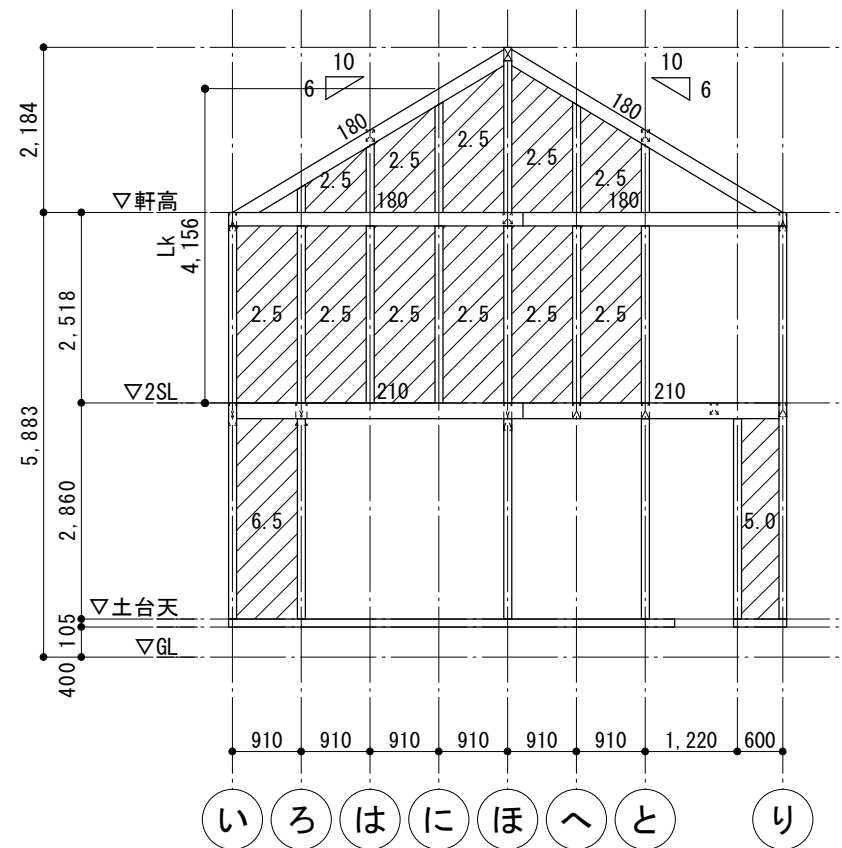
105角 1k=4.156 (m)
 $\lambda=137 \leq 150$
 120角 1k=4.702 (m)
 $\lambda=136 \leq 150$

特記なき限り
 柱105*105
 梁105*150
 梁巾105
 ハッチング及び
 ×は耐力壁を示す。
 土台は伏図を正とする。

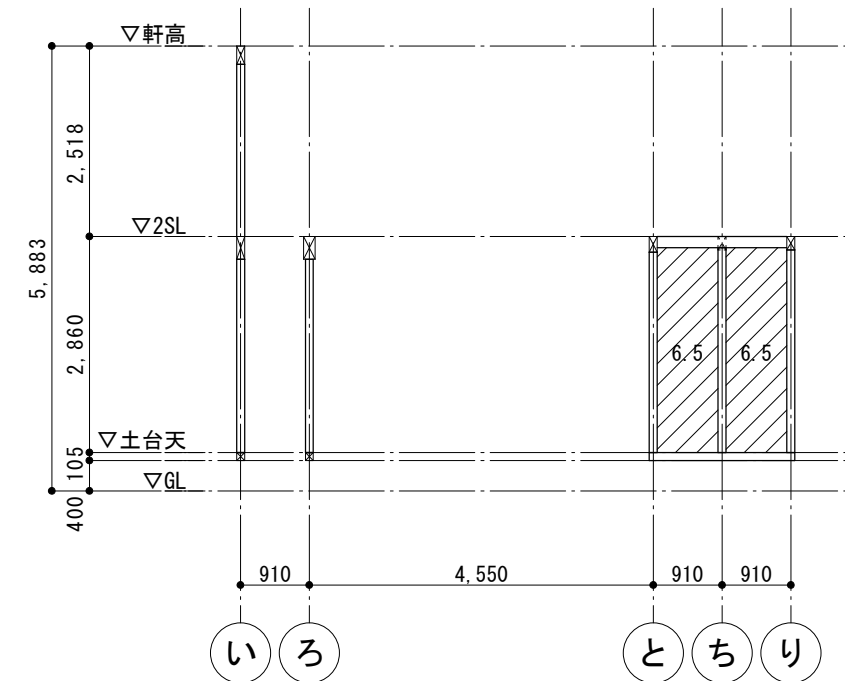




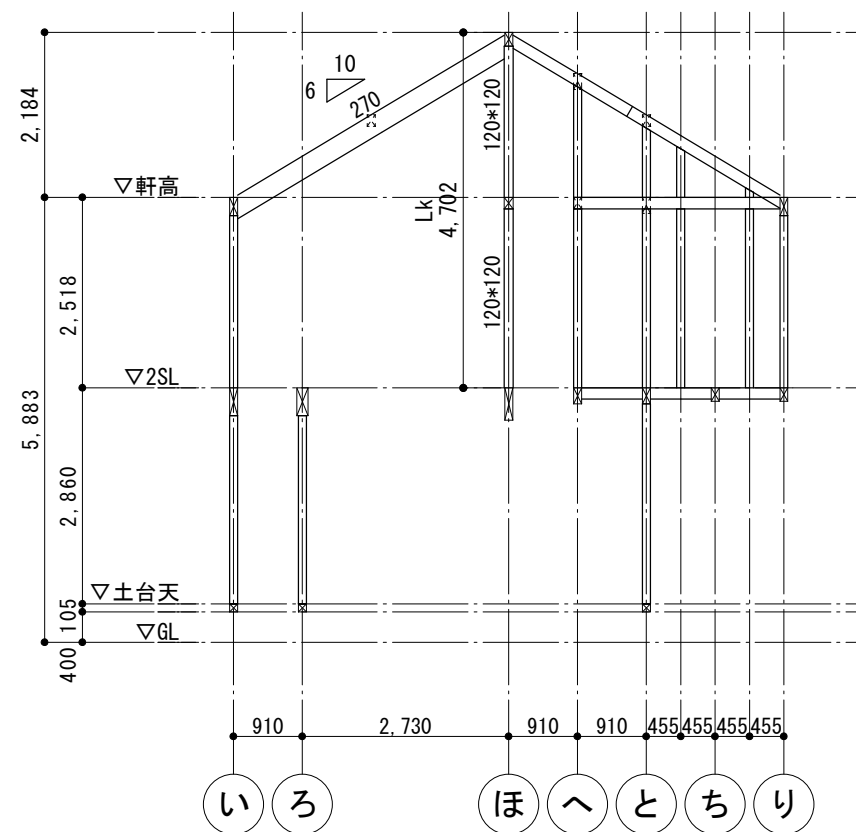
0通り軸組図 1/100



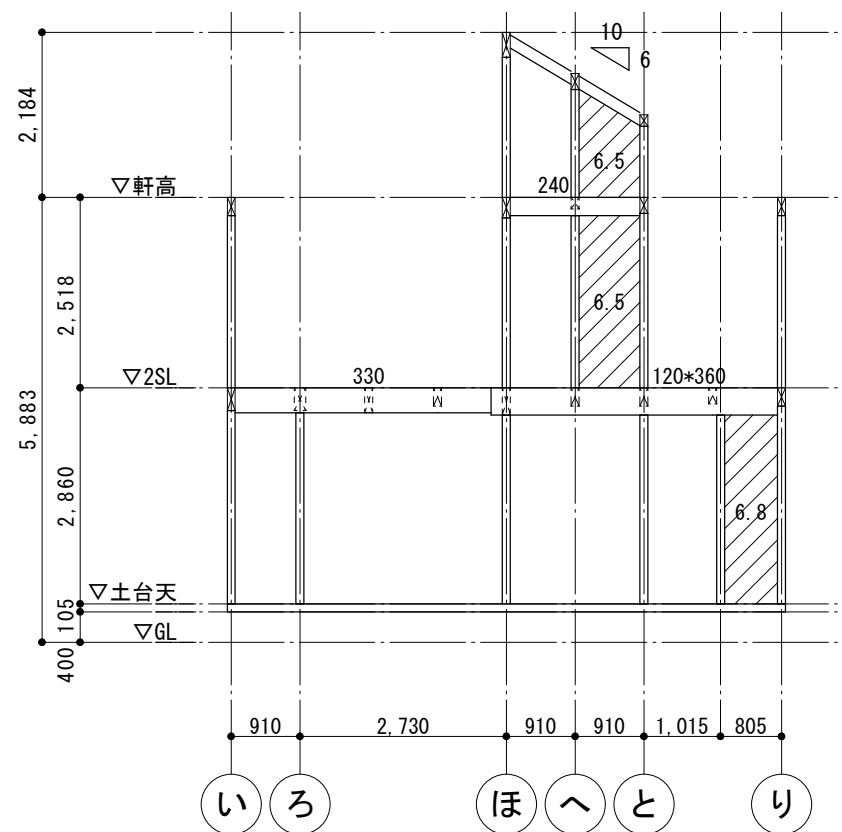
1通り軸組図 1/100



3通り軸組図 1/100



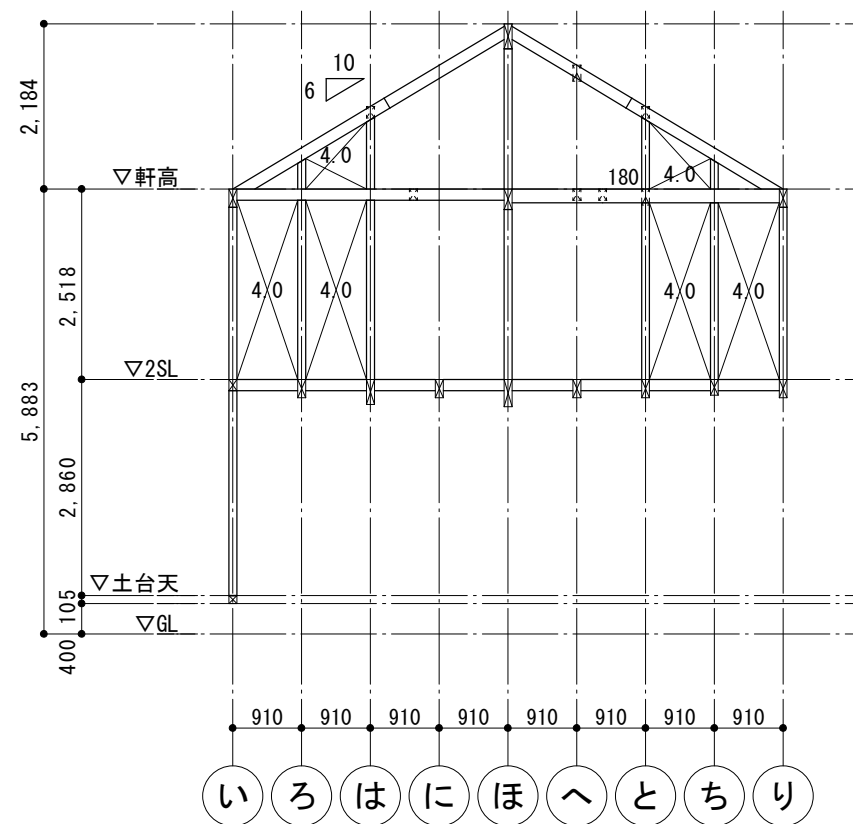
4通り軸組図 1/100



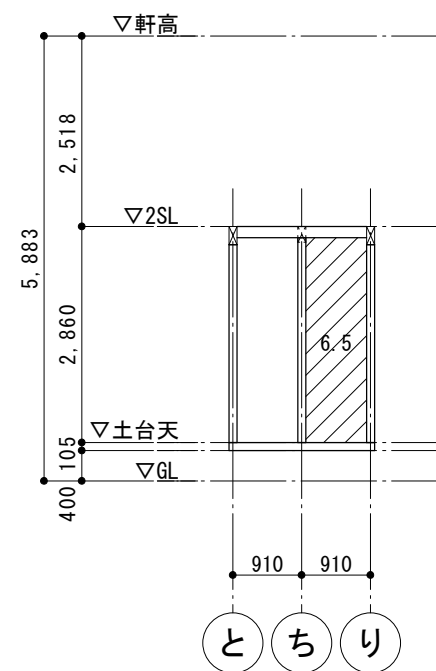
5通り軸組図 1/100

特記なき限り
柱105*105
梁105*150
梁巾105
ハッチング及び
×は耐力壁を示す。
土台は伏図を正とする。

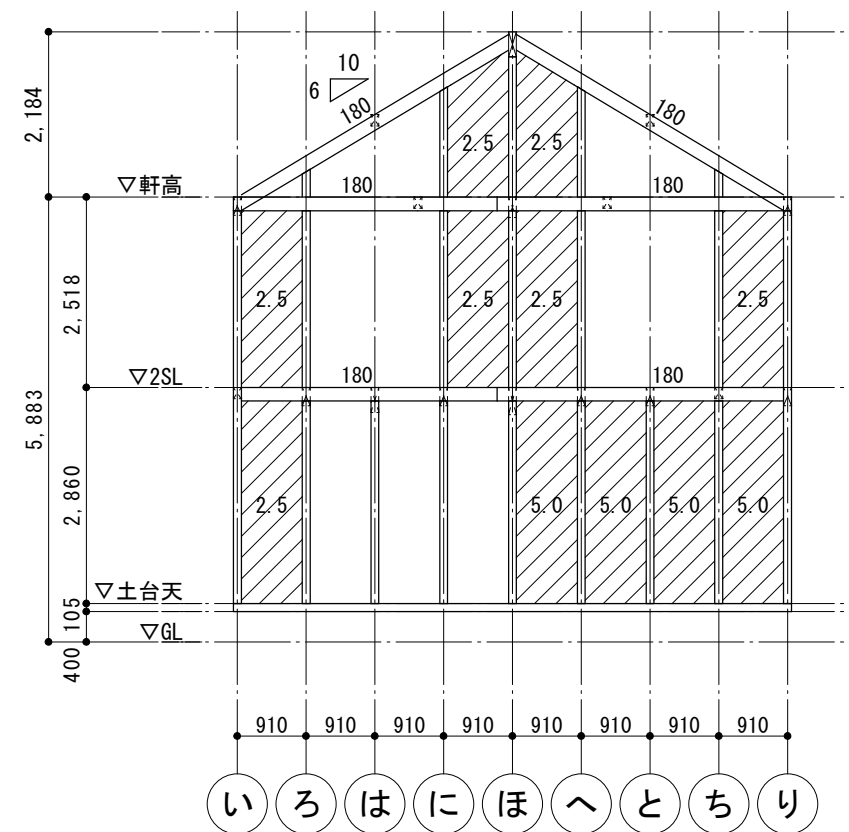




6通り軸組図 1/100



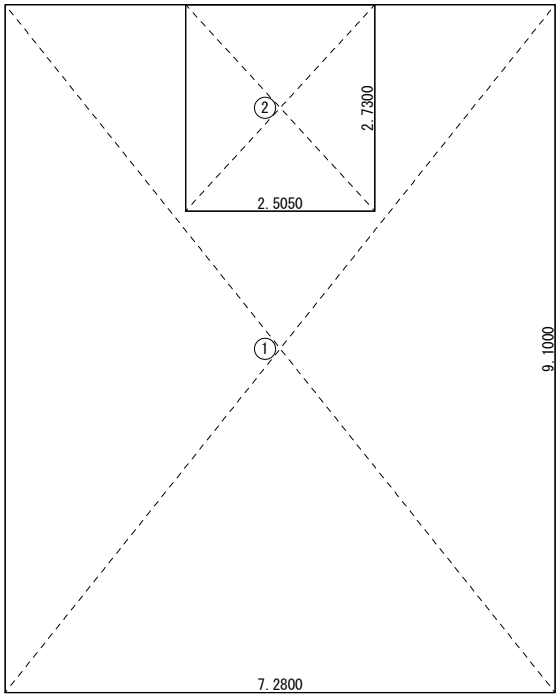
6a通り軸組図 1/100



9通り軸組図 1/100

特記なき限り
柱105*105
梁105*150
梁巾105
ハッチング及び
×は耐力壁を示す。
土台は伏図を正とする。





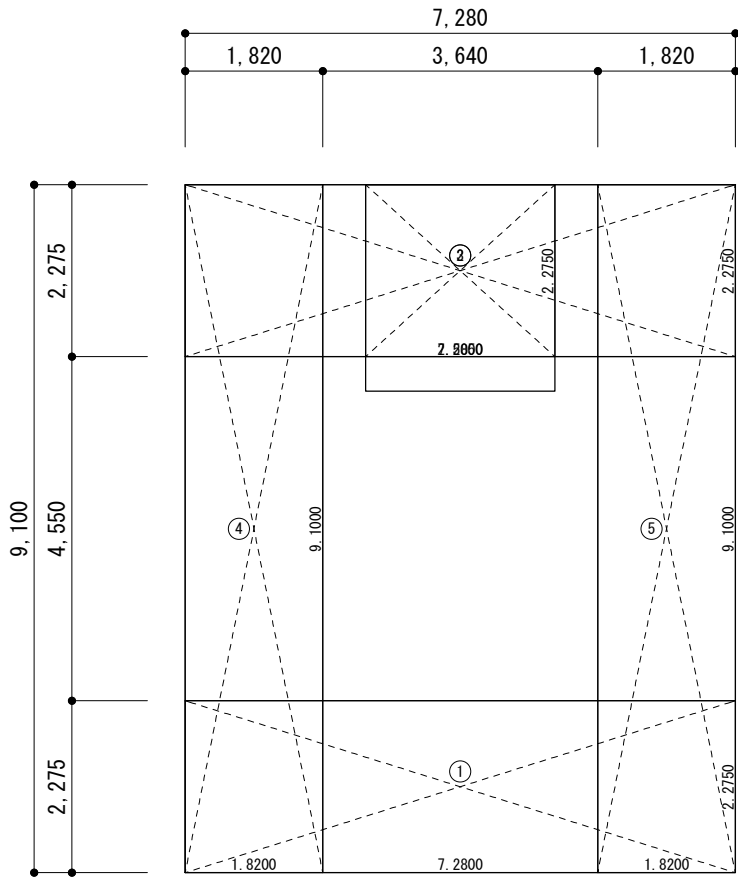
1階床面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
1	7.28 × 9.10	66.25
合計面積		66.25

ロフト床面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
2	2.51 × 2.73	6.85
合計面積		6.85

$66.25 + 6.85 \times 1.4 / 2.1$
 $= 70.82 \text{ (m}^2\text{)}$



1/4下側床面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
1	7.28 × 2.28	16.60
合計面積		16.60

1/4左側床面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
4	1.82 × 9.10	16.56
合計面積		16.56

1/4上側床面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
2	7.28 × 2.28	16.60
合計面積		16.60

1/4右側床面積

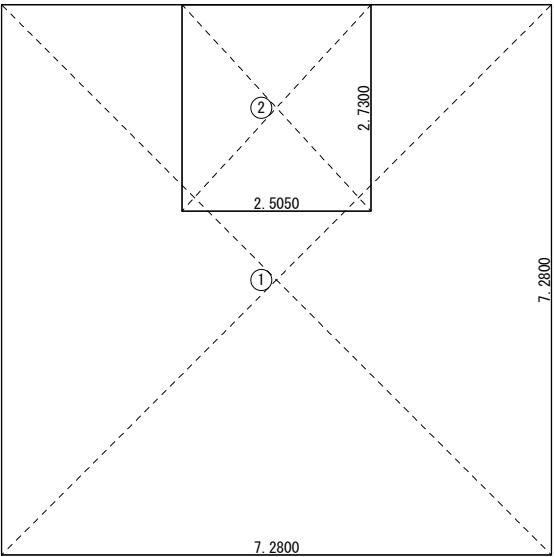
記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
5	1.82 × 9.10	16.56
合計面積		16.56

ロフト床面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
3	2.51 × 2.28	5.72
合計面積		5.72

$16.60 + 5.72 \times 1.4 / 2.1$
 $= 20.41 \text{ (m}^2\text{)}$





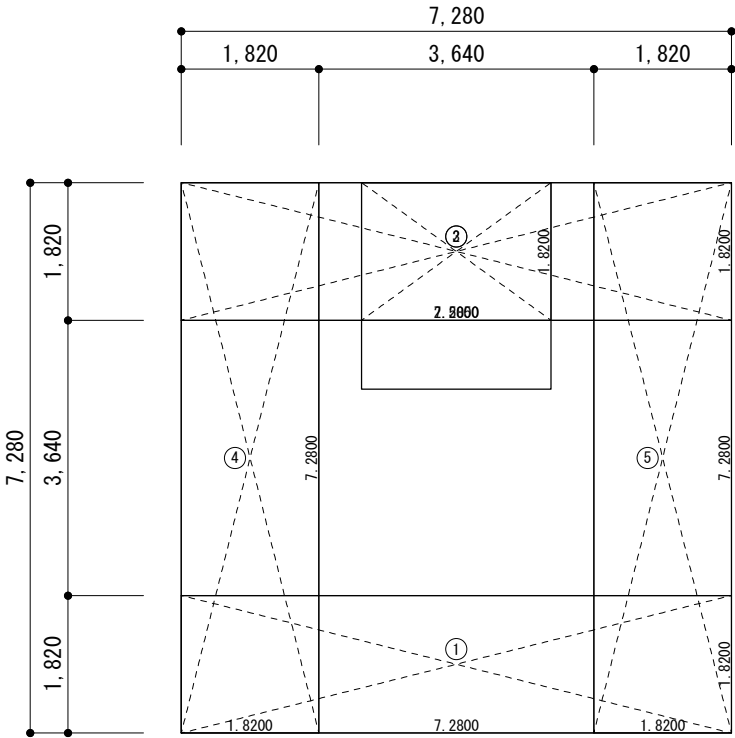
2階床面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
1	7.28 × 7.28	53.00
合計面積		53.00

ロフト床面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
2	2.51 × 2.73	6.85
合計面積		6.85

$$53.00 + 6.85 \times 1.4 / 2.1$$
$$= 57.57 \text{ (m}^2\text{)}$$



1/4下側床面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
1	7.28 × 1.82	13.25
合計面積		13.25

1/4左側床面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
4	1.82 × 7.28	13.25
合計面積		13.25

1/4上側床面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
2	7.28 × 1.82	13.25
合計面積		13.25

1/4右側床面積

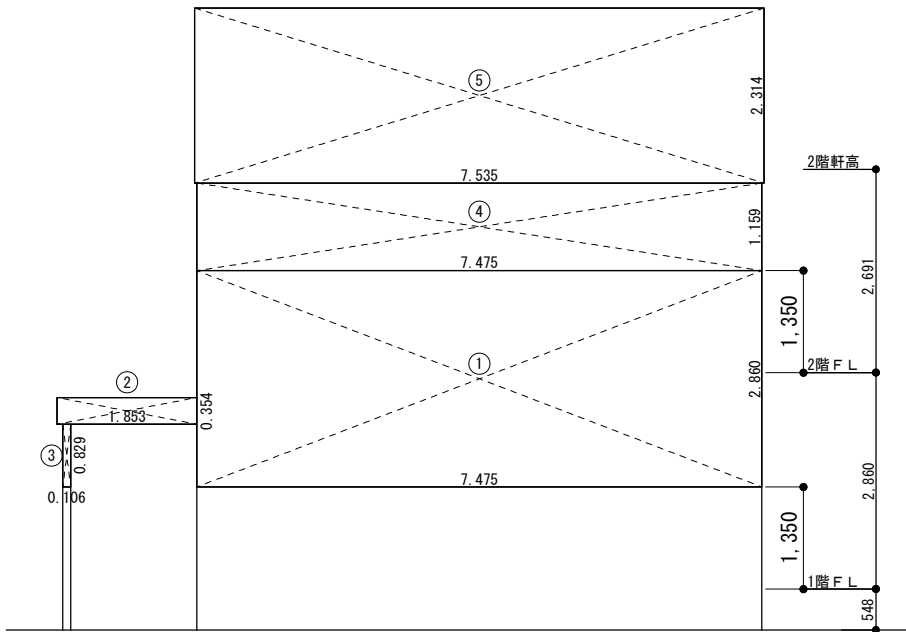
記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
5	1.82 × 7.28	13.25
合計面積		13.25

ロフト床面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
3	2.51 × 1.82	4.57
合計面積		4.57

$$13.25 + 4.57 \times 1.4 / 2.1$$
$$= 16.3 \text{ (m}^2\text{)}$$



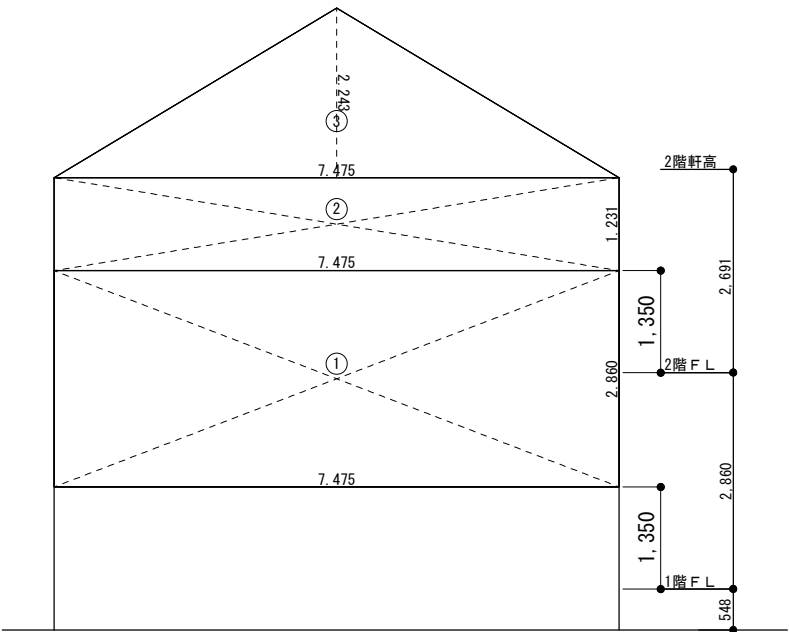


1階X方向受風面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
1	7.475×2.860	21.38
2	1.853×0.354	0.66
3	0.106×0.829	0.09
合計面積		22.13

2階X方向受風面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
4	7.475×1.159	8.66
5	7.535×2.314	17.44
合計面積		26.10



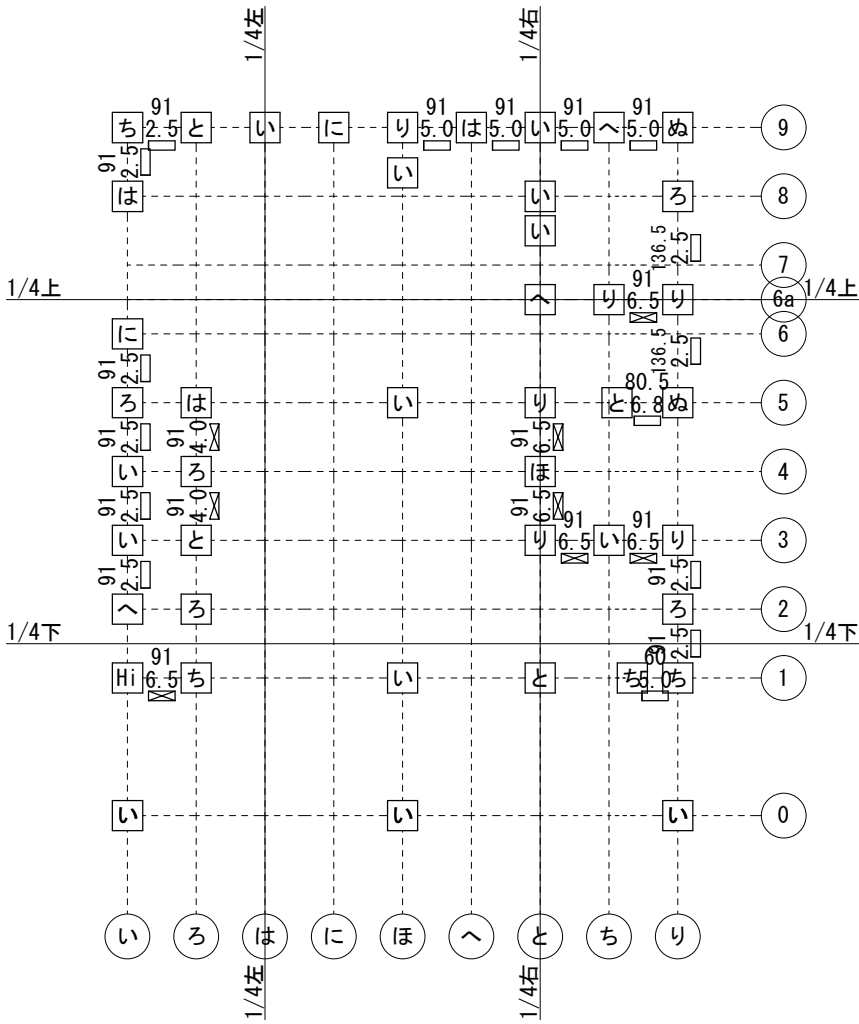
1階Y方向受風面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
1	7.475×2.860	21.38
合計面積		21.38

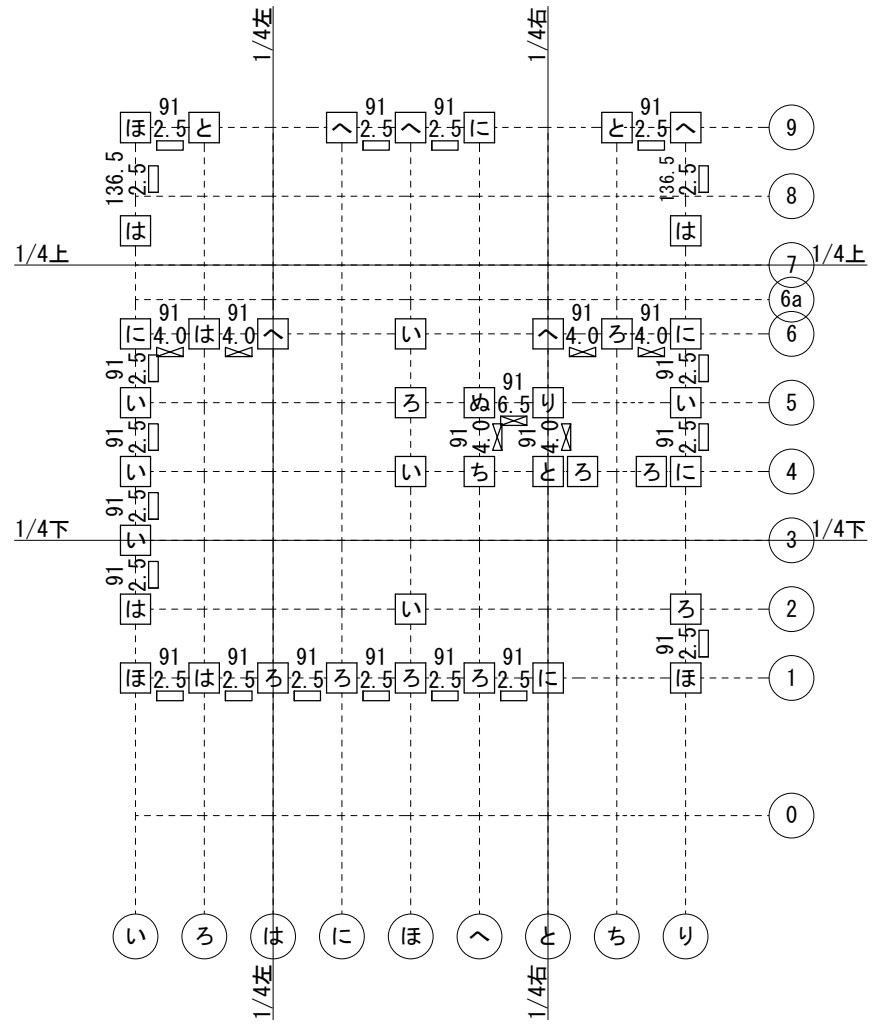
2階Y方向受風面積

記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
2	7.475×1.231	9.20
3	$7.475 \times 2.243 \div 2$	8.38
合計面積		17.58

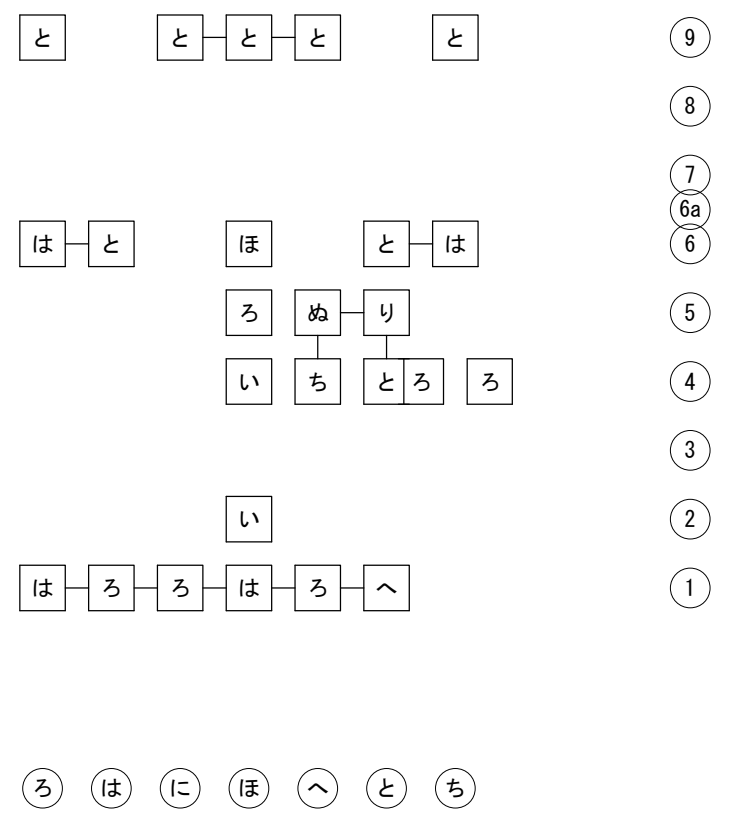




1階柱頭柱脚金物伏図 1/100



2階柱頭柱脚金物伏図 1/100



軒-棟間柱頭柱脚金物伏図 1/100

※と以上の金物を柱脚に使用する場合はホールダウン等の基礎定着型の金物を使用すること。

